

## 第9回 ぷらっとカフェ（テーマ「青梅ならではの空き家活用」）

開催日時 平成27年5月29日（金）18時～

会場 青梅市役所7階食堂

参加者数 46名

当日の流れ

18:00 挨拶

18:10 アイスブレイク

18:20 おそきの学校と地域を考える会の取り組みについて報告

18:50 津屋崎での取り組みについて報告

19:30 休憩

19:40 両報告を比較して考えた事について対話

20:00 席替え（考える会の会員はなるべく固まって情報共有）

20:25 考える会の方から対話内容の発表

20:40 その他参加者から対話内容の発表

21:00 終了

### ○空き家について

- ・空き家を貸さないのは、手続きの煩雑さと、貸し手への信用の問題
  - 個人で進めるのではなく、行政や不動産業者等を仲介者として、1つでいいのでモデルケースを作る。貸す側・借りる側のモラル、近所の理解も必要。
- ・空き家等の「活用」は目的ではない
  - おそきは何を目指して空き家を活用したいのかを考える必要がある。
  - 何をやったら「自分たちが楽しいか」から出発しよう
  - “空き家活用”という言葉を使わない。“こんな生活ができる”を売りにする。

### ○新規事業案

- ・自転車で訪れる人が多い → 岩蔵温泉を休憩所に「集いの湯」  
自宅庭先に休憩所を整備
- ・農業で起業したい若者がいる。
  - 岩蔵温泉+農業体験で農業体験活動を実践したい
- ・都心の近郊であることを活かして、「模擬ふるさと体験」
- ・イベントのお客さんではない「週末市民」

## ○その他

- ・子育て世代に届くコトに絞って事業を推進してはどうか  
→ 子育て世代はおせっかいな助言を求めている。
- ・考え方を変える  
→ 都会まで40分は近いのではないかな？仕事は一つでなくてもいいのではないかな
- ・土日のイベントだけでなく、平日の集いも重要  
→ 子育て中の人や地元の高齢者のアドバイスを求めている。
- ・情報提供力不足  
→ SNS活用で、若者を取り込む  
→ 「田舎暮らし」だけだと、メディアの関心度低い
- ・ターゲットを絞る
- ・中学・高校・大学生の居場所がない。
- ・「カッコいい」大人がいる、大人と子供の対話
- ・子どもを中心としたまちに
- ・学校の廃校は、地域の衰退につながる。
- ・ポジティブアプローチ
- ・楽しい所に人は集まる
- ・顔見知りが多ければ、ちょっとした企画力でことが動く。小曾木はやりやすいのでは？
- ・課題解決ではなく、やりたいと思うことをやる。
- ・当たり前のことを当たり前にする地域
- ・出番と喜びを取り戻す
- ・民間の自己資金でスタート
- ・「箱もの」が人口を呼び寄せることはない。
- ・都会では、「なんかおかしい・・・」と思いながら住んでいる人も多い。
- ・地元と交流する意思のある人を呼ぶ
- ・まちの担い手を受け入れる
- ・地域の底上げができるシステム。表面だけでは長続きしない。
- ・小曾木に住むことが、自慢になるような・・・